

①ユニバーサル (共生)

支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと (障壁や困難の解消 (時間・季節を問わず)、格差の是正、機会の均等、交流の促進、包摂性、心のバリアフリー、自然との共生など)

②ウェルネス (健康)

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること (身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など)

③スマート (快適・先端)

新たな価値や可能性の創出に向けて、多くの人が挑戦していること (先端技術等の活用による快適性・利便性や生産性の向上、人材の育成、「スタートアップ」、「ゼロカーボン」など)

- 人口減少・少子高齢化の社会においても、持続可能な都市経営を行うには、主要な交通結節点周辺などに都市機能の集積が進んでいる③とともに、市民生活・経済活動を支える持続可能な交通ネットワークが確立されていること①が重要。
- また、都市のリニューアル時期の到来や2030年度の北海道新幹線の札幌延伸を契機として、国内外から投資を呼び込むことで、都心等で高次な都市機能の集積が進んでいる③とともに、広域的な交通ネットワークが充実していること②が重要。
- さらに、インフラや市有建築物については、必要な規模や機能を踏まえた計画的な更新や複合化が進んでいる③とともに、道路空間を滞留空間として活用するなどのアセットの利活用が進んでいる②ことが重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
S×T	<ul style="list-style-type: none"> ・住みよさ ・都市機能の集積 ・高い都市ブランドイメージ ・市民1人あたりの市債残高の低さ 			<ul style="list-style-type: none"> ・全国的な少子高齢化の進行
S×O	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然環境、5mの降雪と共存する世界に類を見ない大都市 ・冬季オリパラ大会の国内候補地への内定 ・冷涼な夏の気候 ・都市機能の集積 		<ul style="list-style-type: none"> ・北海道新幹線の札幌開業 ・都市のリニューアル時期による投資意欲の高まり ・世界的なESG投資意欲の高まり 	
W×O		<ul style="list-style-type: none"> ・財政力指数の低さ ・公共、民間も含めた施設の老朽化 		

- 基本目標 18 コンパクトで人にやさしい快適なまち
 ※主要な交通結節点周辺等に都市機能の集積を図るとともに、市民生活・経済活動を支える持続可能な交通ネットワークの確立を図るなど、コンパクトシティを推進する観点を強化 対応する現目標 2 1
- 基本目標 19 世界を引きつける魅力と活力あふれるまち
 ※都心等において、国内外から民間投資を促進し、高次な都市機能の集積や移動環境の充実を図るとともに、広域交通ネットワークを充実する観点を強化 対応する現目標 2 2
- 基本目標 20 都市基盤を適切に維持・更新し、最大限利活用するまち
 ※施設の複合化や官民連携による施設の整備、運営・維持管理を進める観点の強化、また、都市基盤を利活用する観点を追加 対応する現目標 2 4

基本目標 18 コンパクトで人にやさしい快適なまち

■目指す姿 (案)

- 1 都市空間の種別に応じた土地利用と良好な景観の形成により、多様なライフスタイルを実現できる魅力あるまちになっています。
※「土地利用」や「景観」の観点を記載
- 2 「地域交流拠点」では、商業・サービス機能や行政機能など多様な都市機能の集積が進み、快適な交流・滞留空間や歩きたくなる空間が形成され、様々な活動が行われています。
※「地域交流拠点」の観点を記載
- 3 「複合型高度利用市街地」では、集合型の居住機能と多様な生活利便機能が集積し、「一般住宅地」では、多様な居住機能と生活利便機能が調和を保って立地し、「郊外住宅地」では、地域特性に応じた生活利便機能が確保されたゆとりある良好な住環境が維持されています。 ※「住宅市街地（複合型高度利用、一般、郊外）」の観点を記載
- 4 快適で利用しやすく、環境にもやさしい移動環境・手段が整備されることにより、公共交通を軸とした持続可能でシームレスな交通ネットワークが確立されています。
※公共交通を中心とした「交通」の観点を記載。
日常の暮らしに関わる交通については、「生活暮らし」でも記載

■私たちが取り組むこと (案)

目指す姿	市民・企業など	行政
1～3	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりに関わる計画策定等への積極的な参加（市・企） ・景観への関心の向上（市・企）【新規】 ・地域特性に合わせた投資・開発（企）【新規】 ・市街地の質の向上、良好な景観創出、快適な交流・滞留空間形成、歩きたくなる空間形成に向けた取組の実施（市・企） ※交流・滞留空間、歩きたくなる空間形成【レベ】 ・魅力的な交流・滞留空間等の積極的な利活用（市・企）【新規】 ・人流データ等の利活用による空間整備、サービス創出（市・企）【新規】 <p style="text-align: right;">etc</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりに関わる計画等の策定・推進 ・土地利用計画制度等の適切な運用 ・地域特性に合わせた機能の誘導や施設の配置 ・市街地の質の向上、良好な景観創出、快適な交流・滞留空間形成、歩きたくなる空間形成に向けた取組の実施及び誘導・支援 ※交流・滞留空間、歩きたくなる空間形成【レベ】 ・データ連携基盤の整備によるデータ利活用の促進・人流データ等の利活用による効果的なまちづくり【新規】 <p style="text-align: right;">etc</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の利便性向上や地域住民、交通事業者、行政の協働による公共交通の維持（市・企）【新規】 ・環境にやさしい公共交通や徒歩、自転車等の交通手段の適切な選択（市・企） ・データ利活用・先端技術の活用（企）【新規】etc 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の状況に応じた持続可能な公共交通ネットワークの形成 ・安全で快適に利用できる道路ネットワークの維持・充実 ・データ利活用・先端技術の活用【新規】 <p style="text-align: right;">etc</p>

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 持続可能な都市経営や魅力ある都市づくりを進めていくため、少子高齢化の進行や激甚化する自然災害等のリスク、デジタル技術の急速な進歩などを踏まえながら、適切な土地利用を図るとともに、様々な主体が互いに手を携えながら、良好な景観の形成に向けて取り組んでいく必要
- 引き続き、地域交流拠点に日常生活を支える機能やにぎわいを生む機能を集積し、コンパクトなまちづくりを進めていくため、各拠点の特徴や地域特性に応じた都市機能の集積を官民連携で進めていく必要。また、官民連携で、快適なオープンスペースや歩きたくなる空間を創出するとともに、それらを柔軟に利活用していく必要
- 複合型高度利用市街地、一般住宅地、郊外住宅地においては、それぞれの地域特性に応じた都市機能の適正な配置を図るなどして、生活利便性・交通利便性を確保するとともに、多様なニーズに応じた住環境を確保する必要
- 公共交通利用者数はコロナの影響により、減少に転じていることから、更なる効率化や新たな生活様式に伴うデジタル活用などを図っていくほか、交通施設や車両の更なるバリアフリー化や交通情報の充実による公共交通の質的充実を図るとともに、乗継機能の強化や、MaaS等ICTを活用した取組の推進など、ハード・ソフト両面からシームレスな移動環境の実現を図ることにより、持続可能な交通体系を確保していく必要

■第2回審議会でいただいたご意見

- 都市の美しさ、景観に関する記載がない。合理的に利便性のある整然とした街並みだけではなく、美しい街並みに関する記載もあって良い。基本目標18の「人にやさしい」に包含されているのかもしれないが、歩いて暮らせるまちの実現というものが無い。「持続可能な交通ネットワークの実現」だけだと、車両中心のように思われる。（岡本）
- コンパクトに都市機能を集約し空中歩廊など歩きやすい空間があれば、季節や天候に関わらず身体活動ができ、車に頼らない社会づくりは健康にとっても非常に良い。（大西）

基本目標 19 世界を引きつける魅力と活力あふれるまち

■目指す姿 **案**

- 「都心」では、民間投資と共鳴した新しい時代にふさわしい高次な都市機能の集積が進んでいます。また、快適な交流・滞留空間やみどりの創出、移動環境の充実により、魅力的でうおいのある歩きたくなる都心が形成されるとともに、データや先端技術の活用などにより、イノベーションが創出され、新しい価値が生まれ続けています。
※「都心」の観点を記載
- 「高次機能交流拠点」では、国際的・広域的な観点を持った産業や観光、スポーツ、文化芸術などの都市機能の高度化と集積が進み、国内外問わず、多くのヒト・モノ・投資・情報呼び込んでいます。
※「高次機能交流拠点」の観点を記載
- 「工業地・流通業務地」では、操業環境の保全や土地利用の再編、低未利用地等の適切な活用などにより、老朽化した施設の更新や機能の高度化・複合化が進んでいます。
※「工業地・流通業務地」の観点を記載
- 広域交通ネットワークの充実・強化により、道内の都市や観光地をはじめ、国内外の地域とのつながりが深まり、新たな交流が促進され、さっぽろ圏はもとより北海道全体の社会経済活動が活発化しています。
※「広域交通ネットワーク」の観点を記載

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1, 2	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりに関わる計画策定等への積極的な参加（市・企） 地域特性に合わせた投資・開発（企） 【新規】 都心等の質の向上、良好な景観創出、快適な交流・滞留空間形成、歩きたくなる空間形成に向けた取組の実施（市・企） ※交流・滞留空間、歩きたくなる空間形成【レベ】 魅力的な交流・滞留空間の積極的な活用（市・企）【新規】 人流データ等の利活用による空間整備、サービス創出（市・企）【新規】 etc 	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりに関わる計画等の策定・推進 土地利用計画制度等の適切な運用 地域特性に合わせた機能の誘導や施設の配置 都心等の質の向上、良好な景観創出、快適な滞留空間形成、歩きたくなる空間形成に向けた取組の実施及び誘導・支援 ※交流・滞留空間、歩きたくなる空間形成【レベ】 データ連携基盤の整備によるデータ利活用の促進・人流データ等の利活用による効果的なまちづくり【新規】 etc
3	<ul style="list-style-type: none"> 周辺環境と調和しながら、市内で工場等を新・増設、移転（企）【新規】 etc 	<ul style="list-style-type: none"> 土地利用計画制度等の適切な運用【新規】 移転建替え・増設に必要な工業用地を求める事業者とのマッチング支援【新規】 etc
4	<ul style="list-style-type: none"> 市民、観光客等の広域交通の積極的な利用（市・企）【新規】 広域交通の利便性向上（企）【新規】 etc 	<ul style="list-style-type: none"> 広域交通ネットワークの整備や利便性向上 ※利便性向上【レベ】 広域交通の利用促進【新規】 etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 都心は都市機能の立地や様々なアクティビティが展開される拠点として、また北海道・札幌の顔として、都市政策上重要な役割を担う場所であることから、都市間競争に勝ち抜くためにも、都市のリニューアル時期を捉え、交流拠点及び骨格軸等を中心に、民間投資を呼び込みながら、官民一体となったまちづくりを進めていく必要
- 北海道新幹線札幌延伸、丘珠空港の機能強化、冬季オリンピック・パラリンピック招致などを見据え、国際的・広域的な観点をもった産業や観光、スポーツ、文化芸術などの都市機能の高度化や集積を図る必要
- 市内の工場・倉庫等の老朽化が進んでおり、施設の更新や施設の規模拡大、機能増進を目的とした新・増設、移転に伴い新たな土地を求める企業が存在する一方、多くの企業は市内に土地を確保できず、一部の企業は市外移転しているケースも発生していることから、製造業や流通業などの立地に適した土地を確保していく必要
- 道内の主要都市や観光地のほか、国内外の地域をつなぐネットワークとして、北海道新幹線札幌延伸、都心アクセス道路整備、丘珠空港の機能強化など、北海道の中核都市として道内各地域からの交通アクセスの利便性向上を図るとともに、国内・国外につながる多様な交通手段の提供、定時性を確保していく必要

■第 1、2 回審議会でもいただいたご意見

- 都心では地下、琴似などでは空中歩廊が充実。雪や寒さに対応する空間的な工夫、歩いて暮らせるまちの切り口は少しずつ成長していると思うので、そこが伝わるような表現にしていく必要（岡本）
- 今後、新幹線札幌延伸の実現、あるいは、空港、高速道路網と併せて、札幌と道内の各市町村、道外も含めて、人流、物流が格段に飛躍されることが期待できる（中田）
- ハコモノは資源・レガシーとして経済を推進する起爆剤として重要であり、新幹線延伸にあわせて積極的に稼げる施設にするべき（原田）

基本目標 20 都市基盤を適切に維持・更新し、最大限利活用するまち

■目指す姿 **案**

- 1 道路、交通施設、上下水道、公園、廃棄物処理施設等のインフラや、区役所、学校、住宅等の建築物は、老朽化のほか、必要な機能や人口動態、地域の特性等も踏まえ、計画的な維持・更新・再配置・複合化が行われています。また、ICTや先端技術の活用により、効率的な維持・保全や施設規模の適正化等が行われています。
※「インフラや建築物の計画的な維持・更新等」の観点を記載
- 2 公共施設では、整備や運営・維持管理に関する積極的な官民連携により、市民ニーズ・社会経済情勢を捉えた多様で柔軟なサービスの提供が行われています。
※「官民連携による整備や運営・維持管理」の観点を記載
- 3 道路や広場などの都市基盤等の空間が有効に利活用され、まちにゆとりやにぎわいが生まれています。
※「都市基盤等の利活用」の観点を記載

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1、2	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラや建築物の計画的かつ効率的な維持・保全・更新等【新規】 ・既存ストックの性能維持・向上【新規】 ・インフラや建築物の維持・保全等における生産性向上、業務効率化につながるICTや先端技術の活用（企）【新規】 ・ICTや先端技術の活用に向けた人材の育成【新規】 ・公共施設の整備・運営等に係る積極的な参画（企）【新設】 <p style="text-align: right;">etc</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラや建築物の計画的かつ効率的な維持・保全・更新等 ・住宅の維持保全に関する情報提供等の支援【新規】 ・公共施設の集約化・複合化の推進や、民間施設との連携などによる効果的かつ効率的な配置の推進 ・ICTや先端技術の活用、促進・支援【新規】 ・都市基盤の現状や将来の課題に関する情報の提供や企業が行う人材確保に対する支援や制度面での環境整備 ※企業が行う人材確保に対する支援や制度面での環境整備【レベ】 ・PPP/PFI手法の導入等、民間活力の積極的な活用【新規】 <p style="text-align: right;">etc</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・既存ストックの利活用に対する理解・推進（市・企）【新規】 ・利活用を見据えた公開空地等民有の公共空間の整備・開放（企）【新規】etc 	<ul style="list-style-type: none"> ・官民の都市基盤や未利用地等の空間の利活用の促進【新規】 ・市民のニーズに対応した公共空間の柔軟な利活用【新規】 <p style="text-align: right;">etc</p>

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

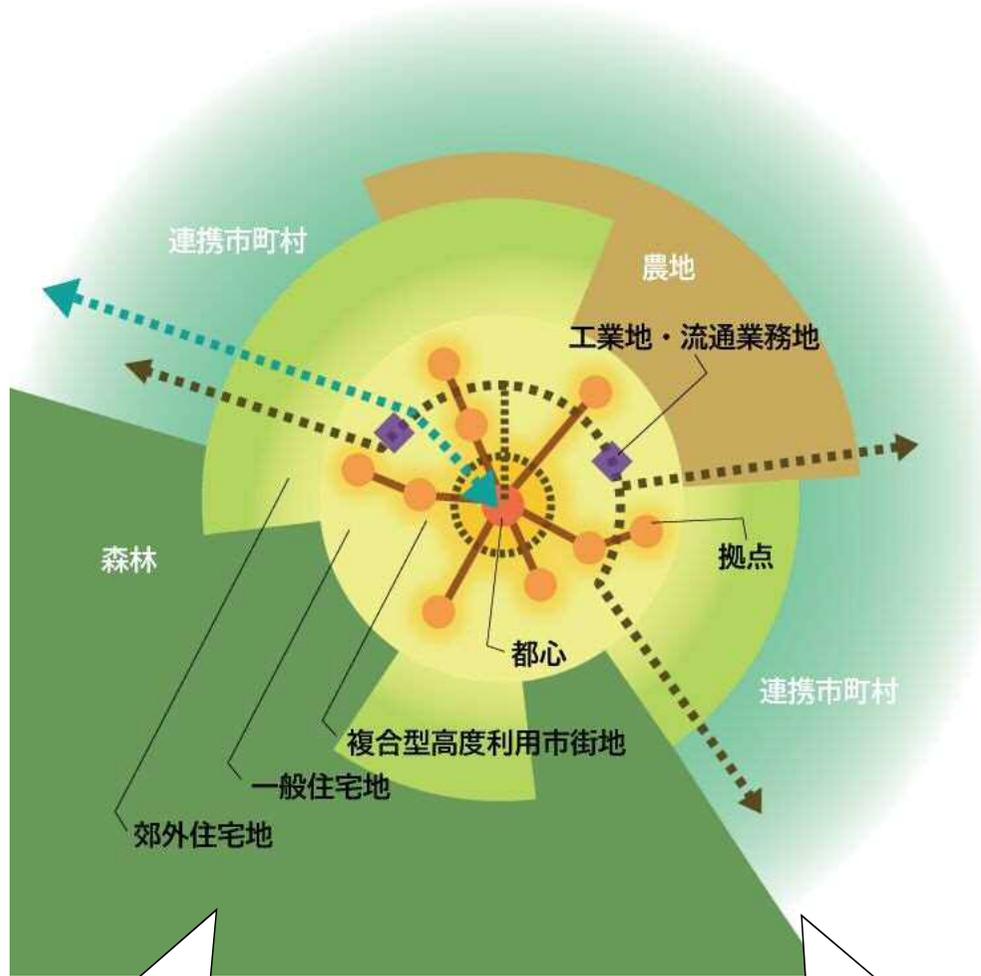
- 道路、交通施設、上下水道などのインフラや、区役所、学校、住宅などの建築物は、各種計画に基づき、ライフサイクルコストの縮減につながる効率的な維持・保全を進めているものの、昭和40年～50年代に集中的に整備してきた結果、今後10年以内に更新需要のピークを迎えることから、引き続き、事業費の抑制と平準化に向けた継続的な取組が必要。また、建設産業の担い手不足や高齢化等を踏まえ、ICTや先端技術を活用し、効率的な維持・保全などを進めていく必要
- 二条小学校はまちづくりセンターと地区会館、児童会館と併せて整備し、白石区複合庁舎は区役所機能のほか、保健センター、区民センターなどの公的な機能集積のみならず、民間施設との複合化を行うなど、効果的かつ効率的な再配置を推進してきた。今後も、施設の更新等にあたっては、多様で柔軟なサービスを提供できる施設数・規模を検討し、施設の最適配置を図るほか、PPP/PFI手法の導入など、民間活力の積極的な活用を進める必要
- 道路空間を滞留空間として活用するなど、都市、地域の資源として存在する官民の都市基盤（都市アセット）を最大限に利活用し、市民のニーズに対応していく必要

■第1、2回審議会でのいただいたご意見

- 税込減やインフラの老朽化が進む中、100年後に向け、今後10年の都市経営や都市構造をどのようにしていくか検討することが重要（村木）
- 施設の老朽化により、複合化が進むと思うが、それを反映していくことが必要（福士）
- 人口減少社会において、市有施設の機能集約は重要（川島）
- 空き地や未利用地などを都市の一つの資源として見直し、例えば、そこで地域の方が菜園をやることで、地域のつながりの再構築にもつながっていく可能性がある（椎野）

【将来の都市空間イメージ図】

案



森林や農地など豊かなみどりに囲まれ、公共交通を基軸としたコンパクトな都市が形成されています。また、道内外とつながる交通ネットワークが形成されています。

都心や各拠点には、特性に応じて多様な都市機能が集積するとともに、地域交流拠点の后背圏には、多様なライフスタイルが実現できる住宅市街地が形成されています

【都市空間の種別の定義】

案

都心	JR札幌駅北口の一帯、大通東と豊平川が接する付近、中島公園、大通公園の西端付近を頂点として結ぶ、北海道・札幌の魅力と活力をけん引し、国際競争力を備えた高次な都市機能が集積するエリア	
拠点	地域交流拠点	交通結節点周辺などで、商業・サービス機能や行政機能など多様な都市機能が集積し、人々の交流が生まれ生活圏の拠点となるエリア
	高次機能交流拠点	産業や観光、文化芸術、スポーツなど、国際的・広域的な広がりをもって利用され、北海道・札幌の魅力と活力の向上に資する高次な都市機能が集積するエリア
住宅市街地	複合型高度利用市街地	おおむね環状通の内側及び地下鉄の沿線、地域交流拠点周辺で、集合型の居住機能と多様な生活利便機能が集積するエリア
	郊外住宅地	札幌市住区整備基本計画などに基づき、低層住宅地を主として計画的に整備し、一定の生活利便機能を有するエリア
	一般住宅地	複合型高度利用市街地と郊外住宅地以外で、多様な居住機能と生活利便機能が調和を保って立地するエリア
工業地・流通業務地	工場などが集積している地区、工業系の土地利用を推進する地区及び流通業務機能が集積しているエリア	
市街地の外	市街化調整区域と都市計画区域外	